

# 生活

seikatsu@asahi.com

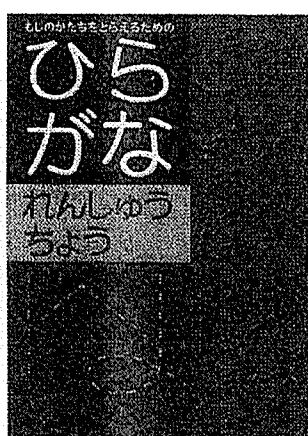
享月

二

新月

月

「ひ」は犬のひつま。〔い〕を書く時は「横線」と、が中心となり、0年から不登校のやうもの学習支援をしてきた。茨城県つくば市で不登校支援などをするNPO法人が、平仮名でつまづいている子どものため、絵や節で覚えやすく工夫した「ひらがなれんしゅりかみ」=写真を作った。



「れ」、「れ」が区別できなかったり、「ひ」を左右逆に書いたり……。学習障害(LD)に代表される読み書き計算など基礎でのつまづきがきっかけで自信を失い、不登校につながる例も多いところ。「特に平仮名の場合は、他の教科にも影響します」と小野村哲理事長。

「キス」は、様々な不得手に対応して手がけたのは「リガオル」。この文字もひらがなで認識するおれどくじ。西の教師だった小野村理事長は、「リガオル」を使って教えることと、子どもが何を困っているのかを自らの情報に弱く耳から聞き計算など基礎でのつまづき覚えるタイプには、「たてびら」と「ひづみ」に乘った節回し練習もあるみたいでした。

「ひづみ」には、3)か、ホームページから。アメーバhttp://www.rise.gr.jp/つけたのが工夫だ。しやぐねるのひづみが正しく認識できるように、学習障害の困難を教師の周囲に理解

原

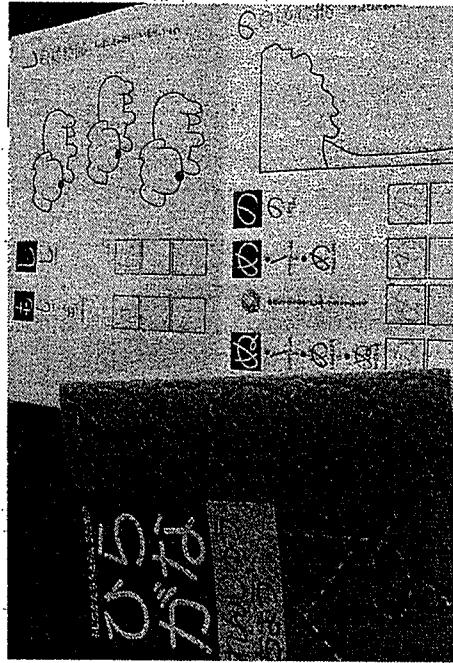
## 日本経済新聞

2005年(平成17年)4月17日(日曜日)

茨城県つくば市の特定非営利活動法人「リヴォルヴ学校教育研究所」が、教育現場の経験を踏まえて、ひらがなを覚えやすいように工夫した練習帳を作り販売始めた。園児や児童がひらがなの学習で感じている苦手意識をぬぐうのが狙い。

練習帳は五十音順に覚えるのではなく、「し、も」「く、へ」「い、り」「ま、よ」など、見た目が似ている文字ごとに練習する。同研究所は不登校の子供を対象にした学校を運営。授業で「し」を左右逆さまに書くなど、誤って覚える子が多かったが、有効な練習帳がなかった。スタッフが子供たちと対話を重ね、覚えやすさを追求した。

# ひらがなで見る「く」



つくば市のNPOが企画・編集した「ひらがなれんじゅううちゅう」

のは、不登校児童・生徒などに学習支援を行つてゐるNPO法人「リヴォルヴ学校教育研究所」（小野村哲代表、つくば市）。小野村さんは、文字の読み書きができないために学校の勉強についていけず、不登校に陥る子どもたちの現状を目の

## 「さんかくおはなの「く」」 文字の「形」を絵や言葉で集めて

## 平仮名練習帳を作成

NPO・リヴォルヴ研究所  
学校教育

「ひらがなれんじゅうの「く」」「めりせんかくしてくる「す」」。文字の形を絵や言葉にしてリストに乗せて練習するリストが県内のNPOの団体によって開発された。発行された「ひらがなれんじゅう」は、文字を覚え始めた子も書くことが苦手な子もためにくつかの段階に分けた質問を組み合わせたり、絵で覚えるなどさまざまな工夫が施されている。関係者たちは「子どもが書けないところは前に進んでほしい」と語っている。

同書の定価は五百円。申し込みは「住所・氏名・電話番号・希望冊数・代金を明記し、はがき、フクス、メールで受け付ける（送料も希望着負担）。あて先は〒305-0051 つくば市二の宮4の8の3 1の4・ネット事務局 フクスは029（856）8143 メールアドレスnpo\_rise@ybb.ne.jp

当たりにし、平仮名の練習方法を考案した。「ひらがなれんじゅう」を読む十人十色の書は、五十音順ではレシートする。はがきになく、「め」「ぬ」は郵便番号・住所・氏名・「の」の間など形の職業・電話番号を明記似た文字にしてから上に書かれており、茨城新聞社学芸部特徴。徐々に整った文字には「生活」係へ。縮め切りにならむようにいくつかの段階が設けられている。

また、絵を効果的に使い、自分で覚える実践や「めりせんかくしてくる「す」」のどちらに文字を書きにしてリストに乗せて練習するなど、さまざまな考え方方が掲載されている。親や教員などの指導者のためには指導法や練習方法について詳しく述べてある。迷い書きがある子には「形がうまくできない子には」などケース別の指導法も書かれている。小野村さんは「さきなり多くを期待するよりは段階別にできたじとをほめてあげてほしい」と語っている。

2005年3月25日(金)  
茨城新聞朝刊記事